



中国・韓国・台湾における 面接審査の実態調査

国際第3委員会 第1小委員会 WG1より

2017.6.20

2017.6.23



概要

| | |
|--------|---|
| テーマ | 中国・韓国・台湾における 面接審査 の実態調査 |
| 狙い | 中国、韓国、台湾で権利化する際、 「面接審査」 がどの程度活用されており、 どの程度有効なのかを解析 |
| アウトプット | 「知財管理」2017年7月号に掲載予定 |



メンバー（敬称略） 8名（第1小委員会12名中）

| | | |
|----------------|--------|-----------------------|
| 副委員長 （小委員長） | 榊原 孝典 | トヨタテクニカル ディベロップメント |
| 委員 | 鵜川 政樹 | セイコーエプソン |
| 委員 | 長谷川 達也 | 日鉄住金総研 |
| 委員 | 堀 弘樹 | ブリヂストン |
| 委員 | 山田 貴史 | 島津製作所 |
| 委員 | 中谷 寛樹 | 日本電気 |
| 委員 | 姫野 唯史 | 三菱重工業 |
| 委員 | 山本 忠史 | 旭硝子 |





目次

1. 背景
2. 面接審査に関する法規
3. 解析にあたって
4. 解析結果
5. 考察
6. まとめ





目次

1. 背景

2. 面接審査に関する法規

3. 解析にあたって

4. 解析結果

5. 考察

6. まとめ





2. 面接審査に関する法規

面接審査に関する法規は以下のとおり

| 中国 | 韓国 | 台湾 |
|---|---|---|
| 専利審査指南 第2部分第八章4.12節 | 韓国特許庁審査指針書 第1編第5部第3章10節 | 専利法42条 |
| <ul style="list-style-type: none">出願人は面接を要請してもよいが、審査官に拒否権あり電話面接は記載不備の討論のみ可 | <ul style="list-style-type: none">出願人が面接を申請し、審査官は必要と認める場合のみ面接審査を前提とした補正案レビュー制度あり | <ul style="list-style-type: none">審査官から出願人に面接の通知あり（明記はないが出願人から面接申請可能とされている）連合面接プログラムあり |





目次

1. 背景
2. 面接審査に関する法規
3. 解析にあたって
4. 解析結果
5. 考察
6. まとめ





3. 解析にあたって

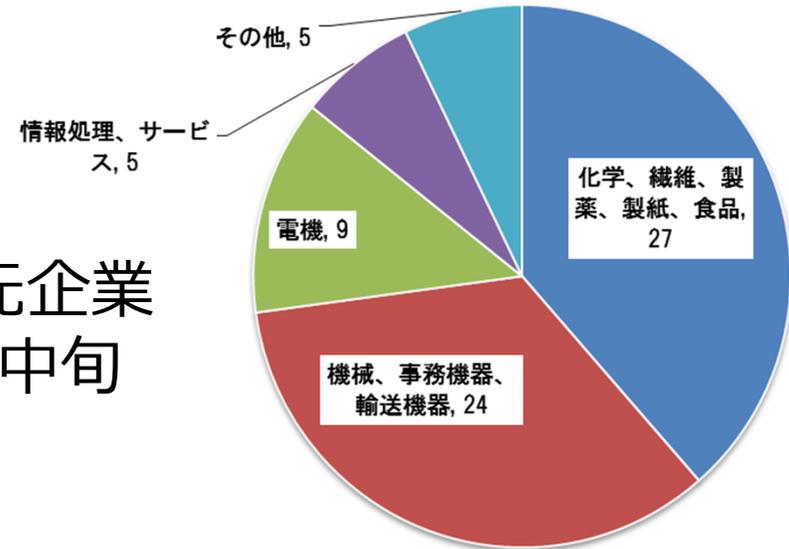
企業単位の経験を集約

(1) アンケート調査

- ・対象：国際各委員会委員の派遣元企業
- ・期間：2016年9月末～同年10月中旬
- ・回答：70社

(2) アンケート内容

- ・申請経験がある場合：申請理由、実績等
- ・申請経験が無い場合：申請しなかった理由等



中・韓・台における面接審査の利用に関する実態調査

(注1) 本調査において、「面接」とは「審査官と直接顔を合わせる面接」をいいます。(電話面接を含みません)
 (注2) 黄色の欄を上から順番にご回答ください。青色網掛けの欄はご回答不要です。

Q. ご回答者様についての質問

| | |
|-----------|--|
| 御社名 | |
| 御社の最も近い業種 | |
| お名前 | |

1. 面接を試みた背景および面接の申請手続についての質問

【Q1】面接の申請をしたことはありますか？

| | | | |
|-------|----|----|----|
| 申請の有無 | CN | KR | TW |
| 1 | 0 | 0 | 0 |

(※青欄は「なし」を選択された場合は017へ)

【Q2】直近で面接の申請をしたのは何年ですか？

| | | | |
|-------|----|----|----|
| 申請した年 | CN | KR | TW |
| | | | |

【Q3】面接の申請をした目的は何ですか？

| | | | |
|---------------------|----|----|----|
| | CN | KR | TW |
| 審査官への技術説明が必要のため | | | |
| 審査官の誤認を解消するため | | | |
| 応募書類を提出したくないため | | | |
| 応募先について審査官の合意をもらうため | | | |
| その他（自由記入欄へ記入ください） | | | |





目次

1. 背景
2. 面接審査に関する法規
3. 解析にあたって
4. 解析結果
5. 考察
6. まとめ

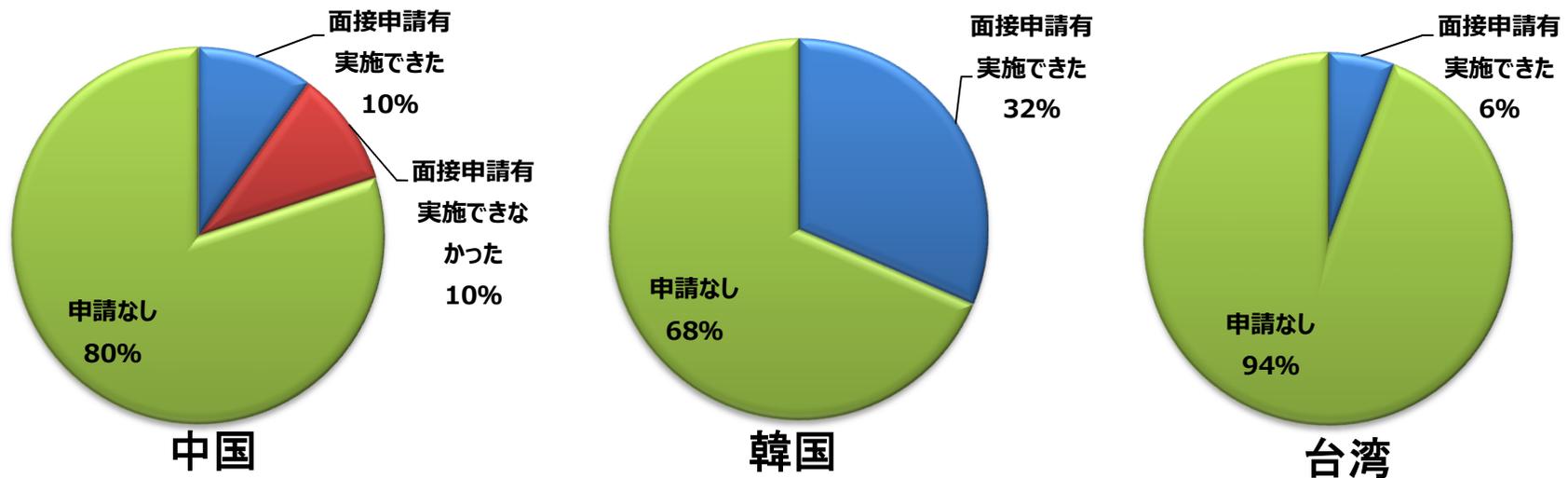




4. 解析結果

アンケート解析① 面接審査の実施状況

70社中

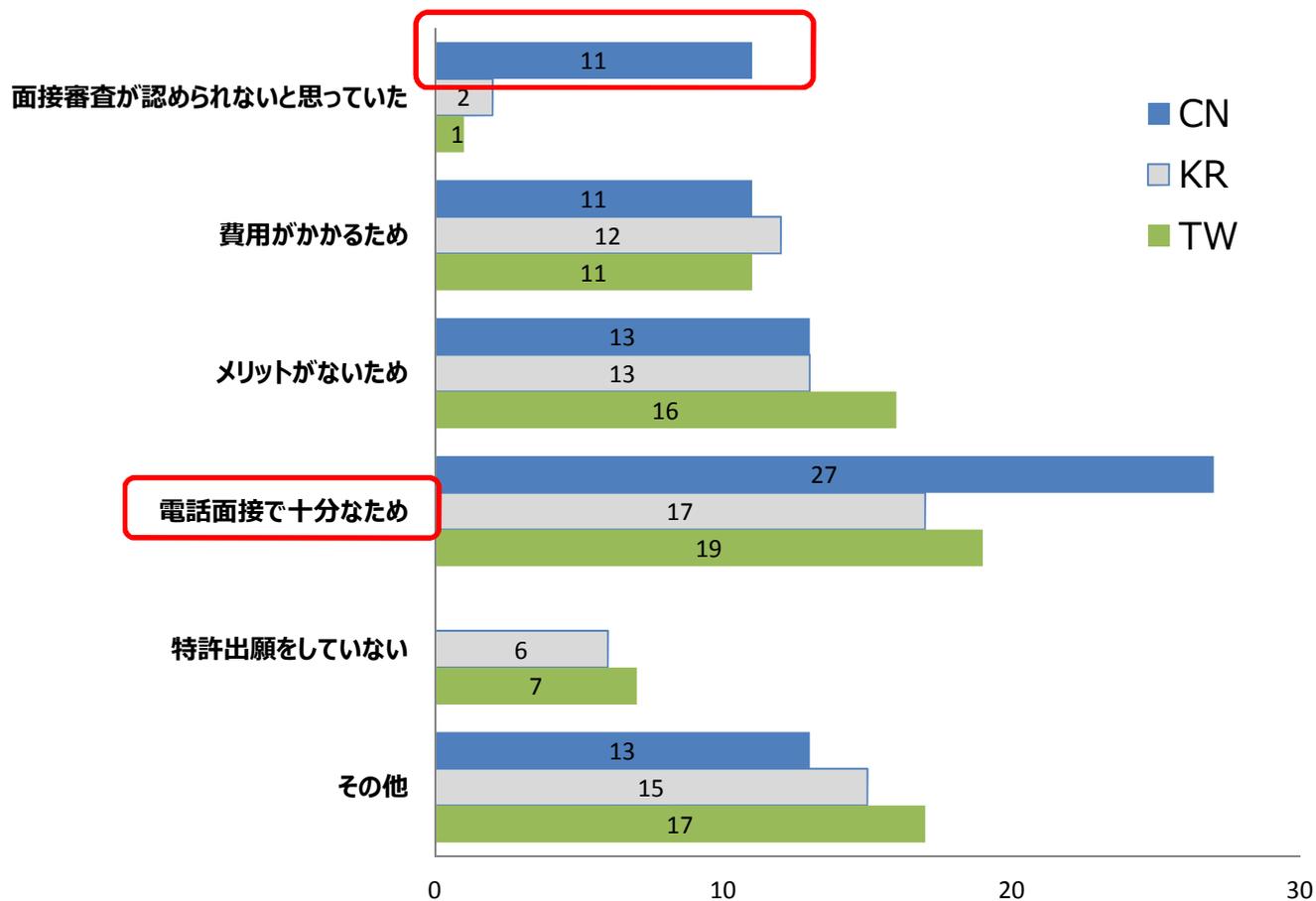


面接審査の申請割合 ⇒ 少ない
中国 申請した中で半数が面接許可されなかった



4. 解析結果

アンケート解析② 面接審査を申請しなかった理由



「電話で十分」 中国では「認められないと思っていた」

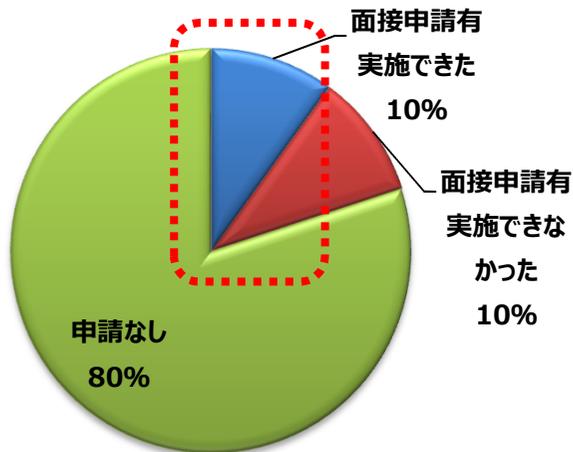




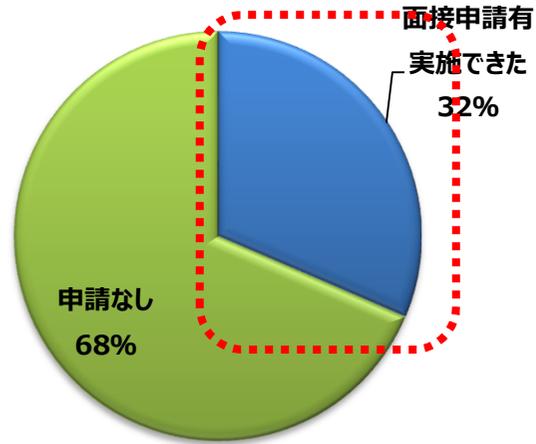
4. 解析結果

先ほどのスライドで…

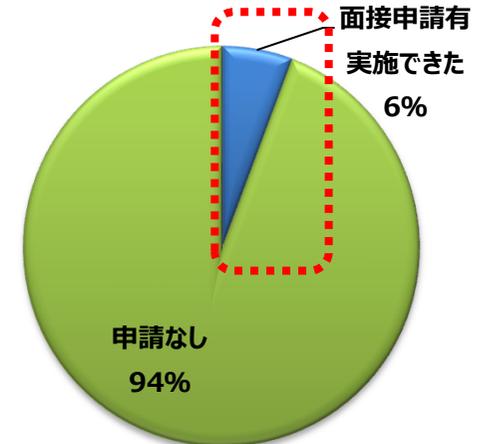
70社中



中国



韓国



台湾

面接審査を実施できた ⇒ 面接の効果は？



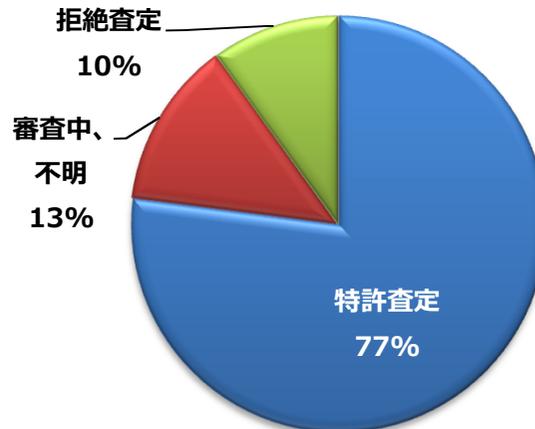


4. 解析結果

アンケート解析③-1 面接審査 実施後の査定と権利範囲



中国

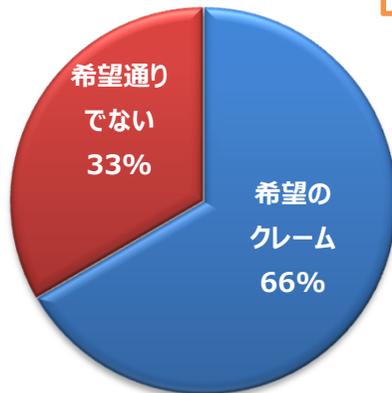


韓国

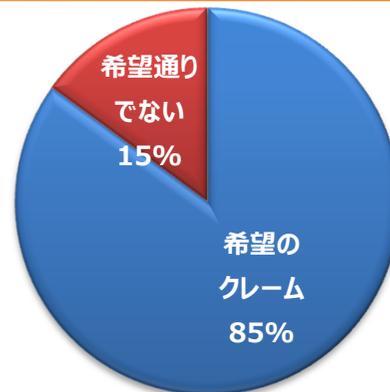


台湾

中国、台湾 100%登録査定



中国



韓国



台湾

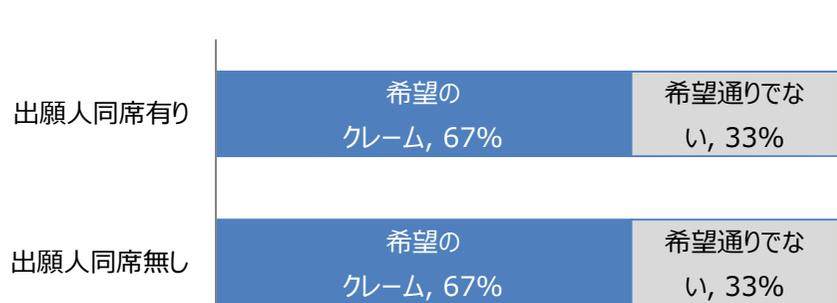
いずれも高い割合で希望通りの権利を獲得



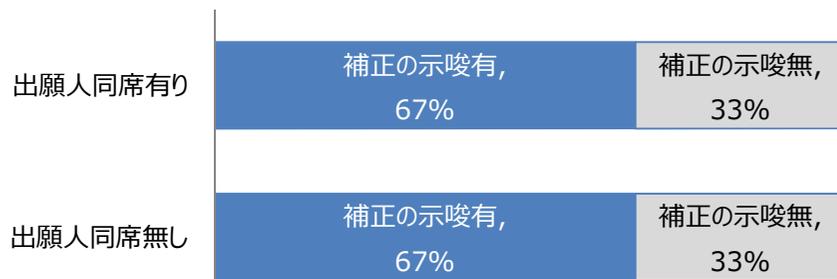


4. 解析結果

アンケート解析③-2 面接審査の出願人同席の影響

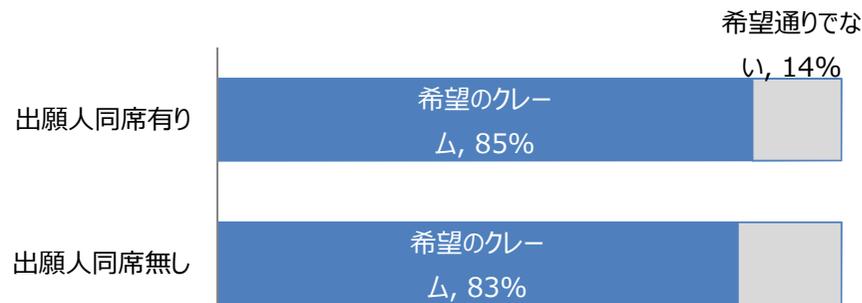


中国

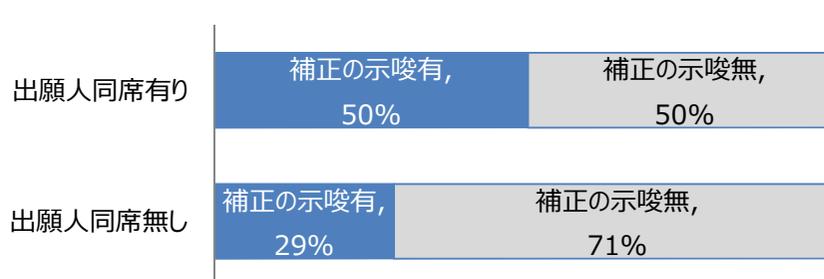


中国

中国 出願人の同席と相関なし



韓国



韓国

韓国 権利化できた範囲は出願人の同席と相関なし

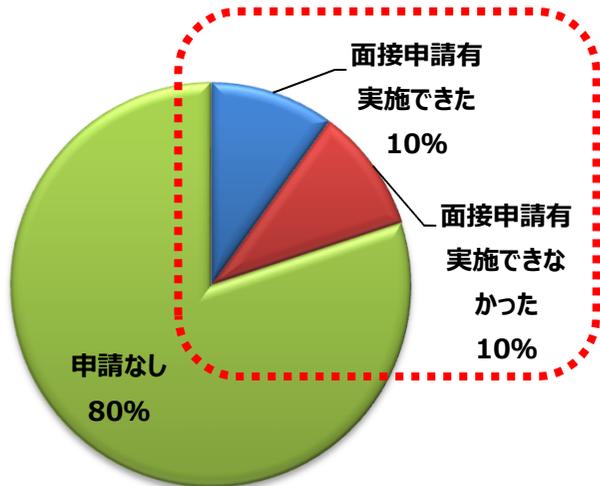




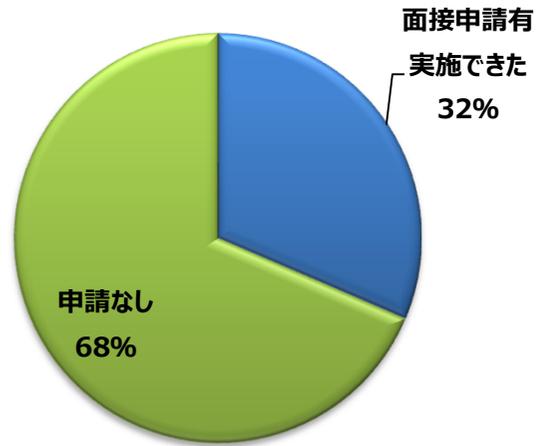
4. 解析結果

先ほどのスライドで…

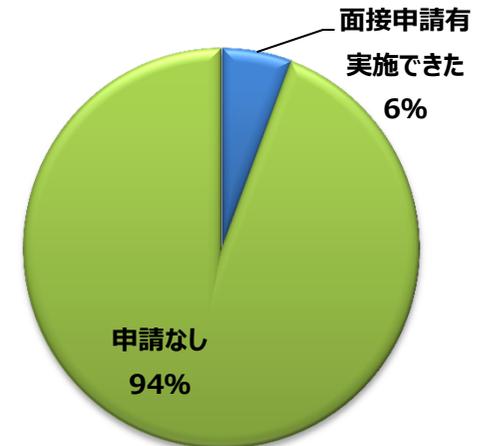
70社中



中国



韓国



台湾

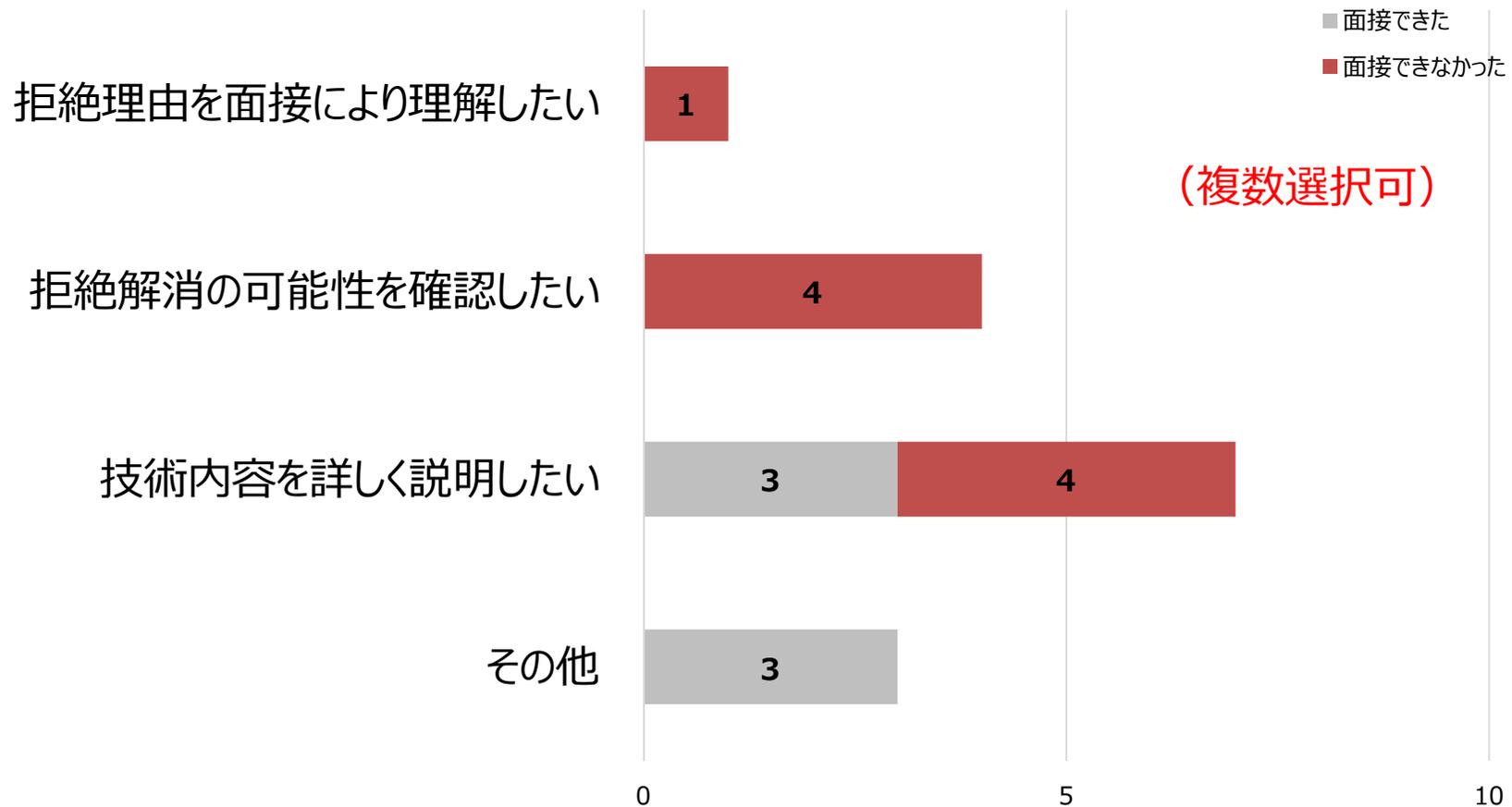
中国 面接審査を実施できた/できなかった
⇒ この差は？





4. 解析結果

アンケート解析④ 中国 面接審査 認められるには



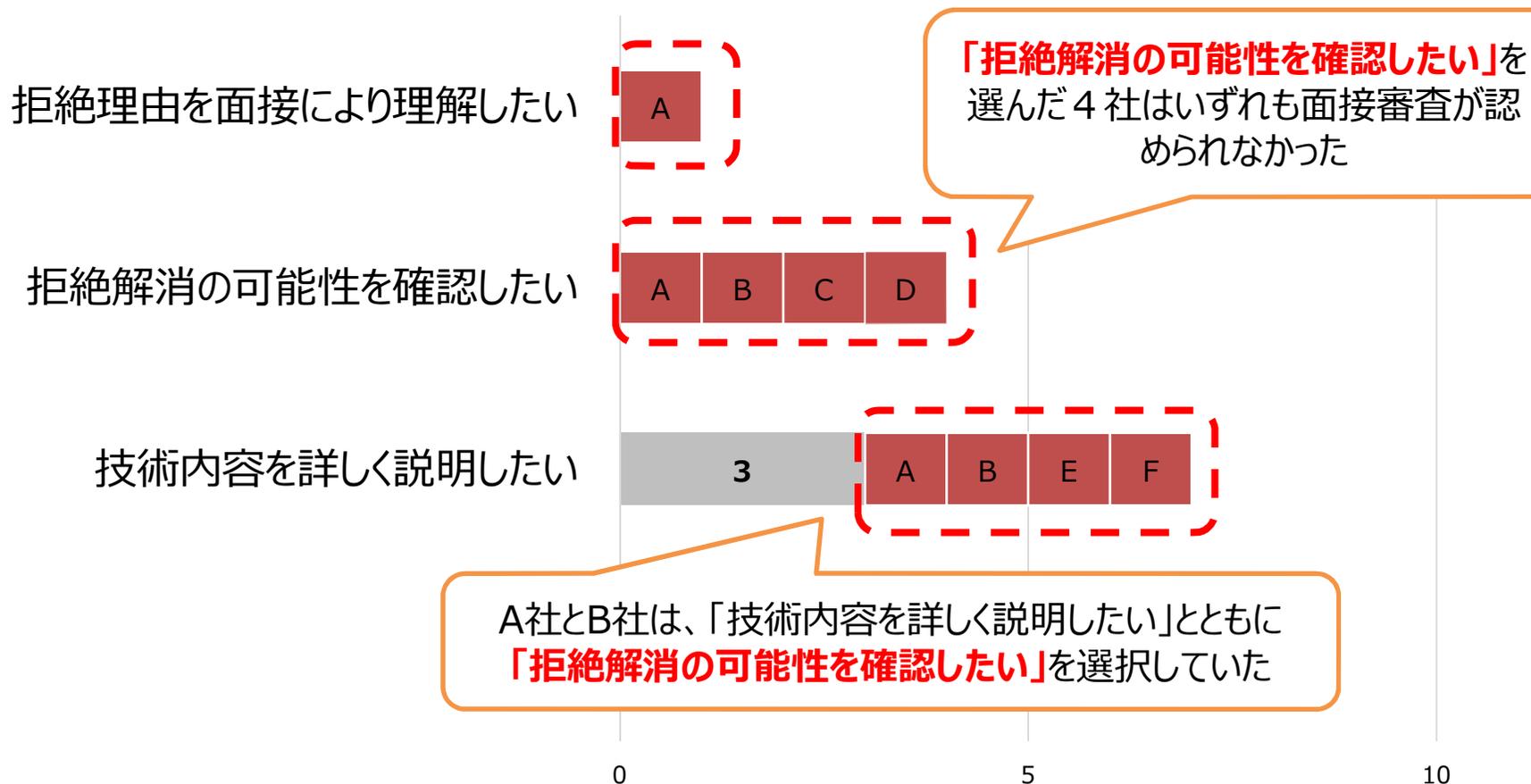
面接審査が認められる場合と認められない場合の違いをより詳細に分析する





4. 解析結果

アンケート解析④ 中国 面接審査 認められるには



面接申請の際「拒絶解消の可能性を確認したい」はNGワード





目次

1. 背景
2. 面接審査に関する法規
3. 解析にあたって
4. 解析結果
5. 考察
6. まとめ





5. 考察

| | 中国  | 韓国  | 台湾  |
|-----------------------|---|--|--|
| 面接審査は 有益か | 有益 (高い割合で希望通りの権利を獲得) | | |
| 面接申請は 受け入れ られるか | 約半数OK 「拒絶解消の可能性 を確認したい」は伝え ない | 全件OK | |
| 出願人同席 の必要性 | 同席しなくてもOK (同等の効果が 期待できる) | 同席しなくてもOK (同席すると補正示 唆得られやすい) | — |



目次

1. 背景
2. 面接審査に関する法規
3. 解析にあたって
4. 解析結果
5. 考察
6. まとめ





6. まとめ

□ 調査・解析

□ 企業単位の経験を集約

⇒これまで見えていなかった新たな傾向を浮き彫りに

□ 解析結果から推察し、現地代理人と面談し方向性を確認

⇒推察に対する裏付けとその背景を確認

□ 日本企業への提言

□ 中国、韓国、台湾において、面接審査は十分に効果がある

⇒積極的な活用を勧める（電話面談では不十分）

□ 中国での面接審査の申請時における注意点

⇒「拒絶解消の可能性を確認したい」とのコメントは控えるべき

□ 面接は出願人が同席しなくても同等の効果がある

⇒出張は不要（面接審査のハードルを下げて）





谢谢聆听，敬请指教！



들어 주셔서 감사합니다！



謝謝聆聽，敬請指教！

ご清聴ありがとうございました！

詳細は「知財管理」で

～世界から期待され、世界をリードするJIPA～



一般社団法人日本知的財産協会

